

平成 30 年「金竜小学校 授業改善プラン」

○ 調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区立金竜小学校 第 4 学年

実施日 平成 30 年 4 月 16 日

実施教科 第 4 学年 国語、算数

第 4 学年 国語

1 結果の分析

(1) 結果の概要

○ 全体的な状況の説明

- ◇「話す・聞く能力」は全国平均正答率を 1.6 ポイント上回っているが、台東区平均正答率を 3.8 ポイント下回っており、課題がみられる。
- ◇「書く能力」は全国平均正答率を 5.6 ポイント、台東区平均正答率を 6.6 ポイント下回っており、大きな課題といえる。
- ◇「読む能力」は全国平均を 9.9 ポイント上回っており、台東区内よりも 4.1 ポイント上回っており、読む学習が身に付いている。
- ◇「言語についての知識・理解・技能」は全国平均正答率を 3.1 ポイント、台東区平均正答率を 4.2 ポイント下回っている。

(2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況（課題）	解決すべき課題
国語	<ul style="list-style-type: none">○「書く能力」が全国平均正答率を 5.6 ポイント下回り、文章を書くことを苦手とする児童が多い。○「言語についての知識・理解・技能」が全国平均正答率を 3.1 ポイント下回り、前学年までの漢字や言葉の理解が不十分な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">→相手や目的を意識して書くことができない。また、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくることや、段落相互の関係に注意して文章構成を考えることに苦手意識をもつ児童が多いため、無解答の児童が多少見受けられた。→前学年に学習した漢字と語彙が定着していないため、正しく読み書きができていない。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

- ・接続詞や繰り返される言葉等にサイドラインを引きながら、段落ごとの内容を的確に読み取れるよう指導する。
- ・文章を書くときは、メモを活用して、内容のまとまり（段落）を意識させて書くように指導する。
- ・朝学習では 3 年時に学習した漢字の復習を行い、定着を図る。
- ・常に自分の国語辞典を用意し、授業で分からない言葉はすぐに自分で調べさせ、理解できるようにしていく。

(2) 改善策（手だて）に対する検証

- ・段落を意識して書くことができているか、児童同士で読み合い評価し合う機会を設ける。担任は添削して書き方の視点を指導する。
- ・週 1 回の漢字の小テストで、9 割の児童が 1 回で正答率 90% を超えることを目指す。学期末の 50 問テストで、正答率 80% を 8 割の児童が達成することを目指す。

平成 30 年「金竜小学校 授業改善プラン」

○ 調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区立金竜小学校 第 4 学年

実施日 平成 30 年 4 月 16 日

実施教科 第 4 学年 国語、算数

第 4 学年 算数

1 結果の分析

(2) 結果の概要

○ 全体的な状況の説明

◇観点別、領域別ともに区や全国の平均正答率を上回っていた。

◇基礎問題、活用問題ともにポイントが上回っているため、前年度までの算数の学習十分に身に付いているといえる。

◇数量や図形についての技能では、台東区の平均正答率を 1.7 ポイント下回っているため、課題がある。

(2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況（課題）	解決すべき課題
算数	○時こくと時間の問題の正答率が悪い。 ○観点別に見ると技能で平均を下回る課題がある。 (整数－小数第一位の計算)	→2つの時刻を比較して、その間の時間を求められない。 →秒で表された時間を分と秒に表すことができない。 →その時々では覚えても、時間が経つと忘れてしまう。

2 改善策

(2) 具体的な改善策

- ・数直線を用いて時間を捉えさせるとともに、時間の計算の反復練習を行い、定着を図る。
- ・小数の計算の仕方について、休み時間や放課後等も活用し、授業内容の理解を定着させるための個別指導を学力向上推進ティーチャーと連携して行う。
- ・朝学習の時間や授業の最初に、3年時の計算の問題を復習する時間を設ける。

(2) 改善策（手だて）に対する検証

- ・ワークテストの知識・理解について、8割の児童が正答率80%達成を目指し、達成度の推移を集計することで、単元ごとに定着度を確認する。
- ・既習事項についてのミニテストを週1回行い、9割の児童が正答率85%達成を目指す。